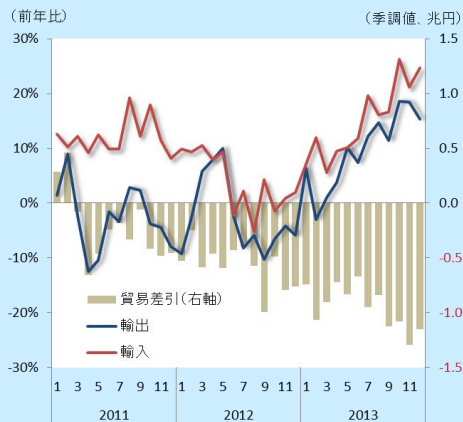
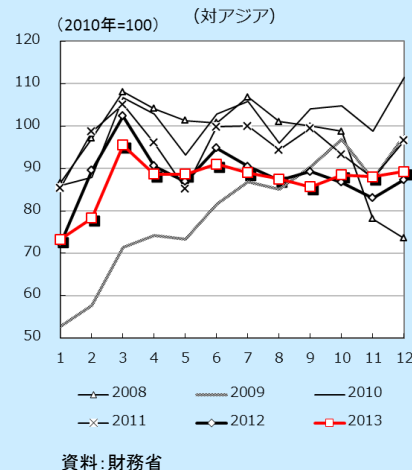


日本：貿易統計（2013年12月および2013年） *MRI Daily Economic Points* January 27, 2014

名目輸出入



輸出数量指数

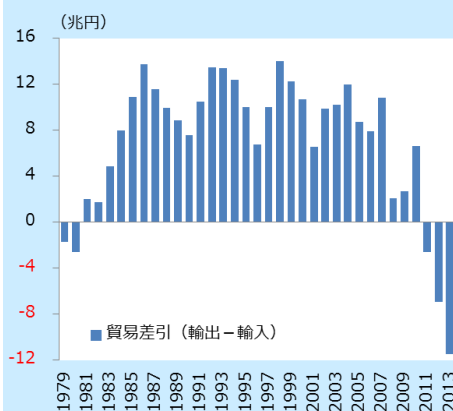


評価ポイント

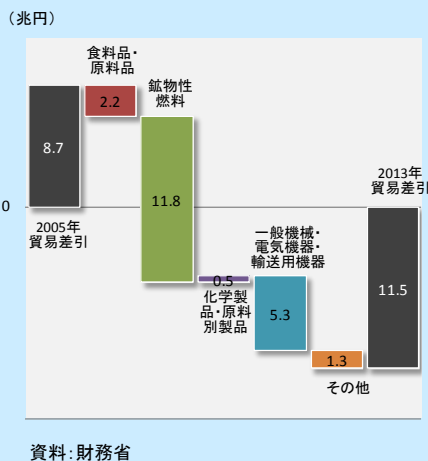
2013年12月の結果

- 12月の貿易統計は、輸出が前年比+15.3%と10ヶ月連続で増加、輸入も同+24.7%と14ヶ月連続で増加した。貿易差引(季調値)は▲1.1兆円の赤字。
- 円安等による価格面の影響を除いた数量ベースでは、輸出数量が前年比+2.6%と3ヵ月連続の増加となっており、輸出は引き続き持ち直しの動きを続けている。輸入数量は同+4.7%と同じく3ヵ月連続の増加となった。
- 輸出数量を地域別にみると、米国向けは自動車を中心に前年比▲4.6%と3ヶ月振りに減少したものの、均してみれば堅調を維持している。EU向け(同+5.4%)は持ち直しの動きをみせている一方、アジア向け(同+2.2%)は、日中関係悪化の影響等による前年の下落分は取り戻したものの、緩慢な回復ペースにとどまっている。
- 輸入数量の増加は、素原材料の寄与が依然として大きいほか、電算機類(同+8.4%)や自動車(同+27.0%)など消費増税前の駆け込み影響とみられる耐久財の輸入が増加した影響も大きい。

貿易差引



貿易差引の変化(2005-2013)



2013年の結果

- 2013年の貿易統計は、輸出が前年比+9.5%、輸入が同+15.0%となり、貿易差引が▲11.5兆円の赤字(1979年の統計開始以来最大)となった。
- 2005年以降の貿易差引の変化をみると、原油等の鉱物性燃料の影響は6割であり、残り4割は一般機械や電気機器などで説明される。円安にもかかわらず、こうした機械類の輸出回復力が鈍い背景には、日本企業の海外生産比率の上昇や一部業種の製品競争力の後退などがある。

基調判断

- 輸出は、先進国向けを中心に緩やかに持ち直しているが、貿易差引では引き続き赤字幅が拡大している。

今後の流れ

- 輸出の先行きは、先進国向けを中心に緩やかなペースでの持ち直しが続けると予想する。ただし、新興国経済は、米国の量的緩和縮小や中国経済減速の影響から景気回復テンポは鈍いとみられ、新興国向け輸出は低調な推移が予想されよう。